行事の意義を考える
季節の行事「節分」

第１００号　２０１９年１月２８日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談やご要望に応えるコンシェルジュがいるように、保育においても様々なご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=ミマモルジュとして、保育に関するご要望にお応えしていけるよう活動していきます。

株式会社カグヤ　奥山卓矢

節分

節分といえば、豆まき。

「豆」は、「魔目（豆・まめ）」ということで、鬼の目に投げつけて、鬼（魔）を滅する「魔滅」に通じ、葉にとげがある「柊」で、鬼の侵入を防ぎ、硬い「おせんべい」で、鬼を追い払います。

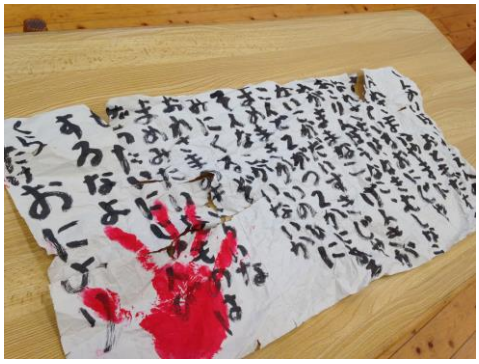
「足形の飴」は、鬼の足跡に見立て、鬼が退散している姿を表しています。（左下写真：右下隅）

節分は文字通り、「季節を分ける」という意味があり、 実は、立春、立夏、立秋、立冬の前日は全て「節分」になりますが、昔は、春を迎えることが新しい年を迎えることだったので、そんな大切な日として現在でも春の節分のみが行事として残されているようです。

今回から新連載ということで「季節の行事」を定期的に取り上げていきます。室礼（しつらい）教室に５年程通われている、カグヤクルーの宮前さんにインタビュー形式でお話を伺っていきます。

室礼とは、季節や人生の節目に、単なる装飾にとどまらず、感謝・祈願 もてなしなどを形に、心を込めて表すということのようです。

2018 年　節分の室礼


鬼からの手紙

月桃の葉に包まれたムーチー

今年はいつもと違い、1 つのムーチーに 3 種の味わいが！（黒糖、紅芋、タンカン）

熊本県　新明保育園さんの昨年の節分の様子

熊本県菊池市にある新明保育園さんのブログに、昨年の節分の様子が紹介されていましたのでご紹介させて頂きます。

まずは左の写真。節分前に鬼からの手紙が届き、それを見て泣き出す子もいたようです。鬼をやっつけるために子どもたちと話し合い、どんぐりを拾いに行ったり、給食では恵方巻を子どもたちが自分で巻いて食べたりしたようです。

果たして結末はいかに！？そして、今年はどうなるのでしょうか！！！
http://shinmei-hoikuen.org/2018/02/kodawari/9289.html

沖縄県　やまびこ保育園

月桃の葉に包まれたお餅（ムーチー）は、毎年園でつくったものを送って頂いています。沖縄では健康、長寿祈願のため縁起物として食される伝統あるお菓子で、鬼退治にムーチーが使われた沖縄の民話に由来し、「鬼餅」とも呼ばれるそうです。

悪さばかりする鬼と化してしまった兄に困った妹が、瓦を入れた餅を食べさせて退治しようとしたというものだそうです。

しかし実際には、瓦入りでもパクパク食べて効果がなかったので、崖から突き落としたらしいのですが、この鬼を退治した日が旧暦の 12 月 8 日で、この日に厄払いの日として、歳の数だけ豆を食べるように、餅を食べるようになったそうです。

季節の行事「節分」インタビュー

―室礼を始めたきっかけは、どういうことだったのでしょうか？

宮前　2013 年からカグヤでは「夏休み」から「夏季実践休暇」へと名称も変わり、「何をしようか？！」と思った時に偶然、立ち読みした本で出会いました。室礼（しつらい）と言う言葉もその時初めて知りましたが、

とても惹かれるものがあったので、すぐにその本の著者である先生の室礼体験教室に参加し、あっという間に５年が過ぎています。年々、行事や室礼を通して、その奥深さを感じ、終わりのない面白さを感じています。

2015年の節分室礼
鬼を追い払うための武器になる「豆」と「柊」。「豆」は、「魔目（豆・まめ）」を鬼の目に投げつけて鬼（魔）を滅する「魔滅」に通じ、豆を入れた「枡」は、「一枡（ひとます）」を「一枡（いっしょう）」と読んで、人の「一生（いっしょう）」にかけた言葉の盛り物です。「鬼の面」は半分に折って控えめにし、家をこっそりのぞいている様子を表しています。

—私も宮前さんが室礼をはじめられて、初めて聞いた言葉でした。

宮前　日本の伝統行事は全体的に稲作文化に通じていて、１年を通して習えば習う程、繋がっていく感覚があります。それまで自分が思う行事は、どこかイベントっぽく思っていたところがあって、例えば、ひな祭りは、ひな人形を飾って、あられを食べるくらいのイメージでしたが、もっともっと奥深いことを知りました。

—それはどういうことでしょうか。

宮前　全国どこでもお正月には鏡餅、三月三日の雛祭りには菱餅。五月五日は柏餅。お月見ではお団子…と多くの行事に必ずお餅が関係していることに気付きます。「日本文化は稲作文化」とよく先生も仰っていますが、お正月だけでなく、ささやかな子どもの行事にまで及んでいたとは驚きでした。
そうやってお米はもちろん、様々な実りに感謝して使える、盛るということが、床の間のない現代の家でも長板１枚の上で行えるのが室礼の魅力だとも感じています。

2016年の節分室礼
黒い長板を家に見立て･･･
鬼門である北東（丑寅うしとら）に「鬼かわら」を置き、「豆」は、「魔目（豆・まめ）」を鬼の目に投げつけて鬼（魔）を滅する「魔滅」に通じ、葉にとげがある「柊」で、鬼の侵入を防ぎ、硬い「おせんべい」で、鬼を追い払うイメージの室礼。

—飾るではなく、盛るという言い方をしますが、どういうことですか？

宮前　室礼をやっていると、ついつい「どうやったら綺麗に飾れるか」となりがちですが、そもそも趣旨は、そのような季節の収穫物を頂いて、私たちは生きているわけですから、そういうものへの感謝です。綺麗に飾ることばかり意識していると、有難うの気持ちがなくなっていることが多く、先生からも「どんな気持ちで盛るかが大事ですよ」と言われます。あえて、飾ると言わないようにしているのは、装飾のイメージではなく、そんな風に感謝の心で供える、盛るということを大事にしたいからです。
幼少期からマンション暮らしで神棚も仏壇もなく育ってきたこともあり、お供えをするという習慣もなかったのですが、室礼を始めてから、そこに供えること、感謝を伝えることと同じなのかなと思うようになりました。頂き物をまず神棚にあげて、「有難うございました」としてから頂いていますが、同じことですよね。生活に落とし込むのはなかなか難しいですが、そういうことを知ること、関心を持つきっかけになったのも室礼のおかげで、私にとっては本当に大きな出会いになりました。

「一陽来復御守」を恵方に向けておまつりするために、見取り図を確認し、方角をしっかり定めます。

「一陽来復御守」
（いちようらいふく・おまもり）

●過去のバックナンバー

第９７号

Happy New Year２０１９

第９８号

古民家『聴福庵』＿縁起物特集

第９９号

古民家『聴福庵』＿幸袋の歴史

http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/

―宮前さんにとって大きな出会いだったのですね。

宮前　お稽古が終わって、「修了証」を頂いても「もうわかりました、大丈夫です」とならず、「もっと知りたい、行いたい」となります。室礼の先生も「知識ではなく行いを」とよく言っています。自分の生活の中でやっていくことが大事で、先生が教えた通りではなくて、自分のおばあちゃんやお母さんが伝えてくれた家庭内文化、その家庭で育まれたものを大事に優先して欲しいとも言われます。そういうところもいいなと思っています。

―節分はどういった行事なのですか？

宮前　節分は、立春の前の日ということで大晦日と同じ感覚で春が始まる１年の節目です。子どもの頃から、豆まきや歳の数だけを豆を食べるなど行っていましたが、邪気払いや無病息災という意味があるんだと室礼をはじめてから改めて感じるようになりました。

「一陽来復」の神様頼みのように、自分にはどうにもできないこともありますし、どこまで自分が理解できているかも分かりませんが、やっぱり長年かけて、昔の人たちがやってきたことの意味は大事にしたいと思っています。特に、子どもたちに繋がると言う意味では、大人の私たちが大事に、楽しくやっていないと途絶えてしまいます。楽しいと残ると思いますし、行事は苦しいものではないと思います。

鬼退治用の柊の葉っぱも、室礼１年目には探せなかったのですが、それから意識して身近にある植物なども目を向けるようになり、今では自宅や会社付近にどんな植物があるかなども以前より詳しくなり、自然が身近に感じられています。社内で豆まきをする時に鬼役を決める時も、厄年の人が鬼役をしたりと、毎年代わるのも面白いです。季節の変化を都会で感じることは、特に難しいものですが、行事や室礼を通して触れやすくなります。「都会だからできない」ではなく、「都会でも楽しんじゃおう！」というのが私たちの取り組みでもあると思います。

―室礼、節分のお話ありがとうございました。今年の「節分」はどうなるのか、待ち遠しくなりました。ありがとうございます。

caguya

〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11　新宿三井ビルディング２号館 10 階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ　奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン

メールマガジンのご登録は、
ＱＲコードからお願いします。